

平成24年6月15日

長野県知事
長野県教育委員長 様

下諏訪町議会議長 濱 章 吉

長野県独自の「30人規模学級」の中学校全学年への拡大を求める意見書

どの子ども健やかに育てほしいという保護者や教職員、地域住民の切実な願いにもかかわらず、今、学校現場では、不登校などの課題の深刻化や、障がいがある児童生徒や日本語指導が必要な児童生徒など特別な支援を必要とする子どもが顕著に増加し、生徒指導面での課題等の複雑化・多様化がみられます。また、学力の国際調査（PISA調査）では、近年、学力の低下傾向や、低位層の増加が指摘されています。さらに、新学習指導要領では、授業時数・指導内容が増加し、観察・実験、論述など知識・技能の活用力を高める質の高い学習活動が望まれています。このような状況の中、教員が子どもと向き合う時間の確保は急務です。

2002年度から県独自に随時導入された「30人規模学級」は、一人ひとりの子どもたちと心を通い合わせる教育のために不可欠な措置であり、2009年度、県費により小学校全学年において、更に今年度からは「少人数学習支援」との選択制ではあるものの、「30人規模学級」が中学2年まで拡大されたことに対しては、深く敬意を表します。

さらにどの子どもにもゆきとどいた教育を保障する観点から、また、今年度30人規模学級を実施した学校が学級編成替えをせずに引き続き学級を維持できるよう、中学校の全学年において同様の施策が早期に実施されることが必要です。

次代を担う子どもたちの健やかな成長のために、次の事項を実現するよう強く要望します。

県独自の「30人規模学級」を中学校全学年へ早期に拡大すること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。